

県内経済は緩やかな回復の動きを 続けているものの足取りは鈍化

1. 平成19年9月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額は6ヵ月連続で前年を下回り、乗用車販売台数は主力の中小型乗用車が低迷し4ヵ月連続で前年を下回るなど消費は総じてやや減少の動きとなっている。生産活動は、情報通信機械の業種を中心として増勢基調で推移している。雇用動向は新規求人数、新規求人倍率、有効求人倍率が伸び悩んで一進一退、投資動向は、独立行政法人、市町村の大幅な公共工事発注減により前年を下回り、新設住宅着工戸数についても6ヵ月連続で前年を下回るなど低調に推移している。以上のことから、生産活動は底固い動きがみられるが、雇用情勢は一進一退、住宅建築、設備投資および公共工事などの減少とともに原油価格高騰から、県内経済は緩やかな回復の動きを続けているものの足取りは鈍化している。

〔消費動向〕 やや減少：大型小売店販売額（全店舗）は厳しい残暑の影響から秋物衣料品などが低迷し6ヵ月連続で前年同月を下回った。乗用車販売台数は、大型乗用車を始め、主力の中小型乗用車が引き続き低調な動きで前年を下回った。消費者物価指数は、前月比および前年比がともに上昇した。個別企業の販売動向をみると、家電量販店では、薄型テレビ、携帯電話などは堅調であった。また、9月に入っても厳しい残暑の日が続いた影響から、エアコンは数量、金額がともに前年を大幅に上回る水準で推移した。ホームセンターは、OA関連用品や園芸用品などが伸び前年をやや上回る水準で推移した。旅行取扱額は、国内個人、国内団体、海外団体旅行が伸び悩み前年をやや下回った。以上のことから、消費は総じてやや減少で推移している。

〔投資動向〕 減少：公共工事前払取扱保証請負金額は、国の発注は伸びたものの独立行政法人および市町村の大幅な発注減により前年を下回った。8月の建設着工棟数（民間・非居住用）は5ヵ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数は、改正建築基準法などの影響もあり6ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動〕 増加基調：8月の鉱工業生産指数は111.7（季節調整済指数）で前月比2.3%の上昇と3ヵ月連続の上昇、前年比では6.4%（原指数）の上昇となった。これらの動きと並行して、大口電力販売量も前年を上回っており（前年比8.0%増）、生産活動は増加基調で推移している。

〔企業倒産〕 悪化：倒産件数は前月を下回ったが、金額は大型倒産の発生により大幅に増加した。9月時点での暦年ベースの累計倒産金額は前年の年間倒産金額を大きく上回り、累計倒産件数も増加基調にある。

〔金融動向〕 横這い：預金は前年をやや上回ったが貸出金は前年を下回る水準で推移した。

〔雇用動向〕 横這い：新規求人数、新規求人倍率、有効求人倍率はともに前年同月を若干下回った。

県内経済動向の概要

| | 項 目 | 7 月 | | 8 月 | | 9 月 | |
|------|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 前年同月比 | 前 月 比 | 前年同月比 | 前 月 比 | 前年同月比 | 前 月 比 |
| 消費動向 | 大型小売店販売額（全店舗） | ↘ | ↗ | → | ↗ | ↘ | ↘ |
| | 乗用車新車登録台数 | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | → | ↗ |
| | 消費者物価指数（総合） | ↗ | ↘ | → | ↗ | ↗ | ↗ |
| 投資動向 | 公共工事前払保証取扱保証請負金額 | ↗ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↗ |
| | 建設着工棟数（民間・非居住用） | ↗ | ↘ | ↘ | ↘ | - | - |
| | 新設住宅着工戸数 | ↗ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↗ |
| 生産活動 | 鉱工業生産指数（総合）注1 | ↗ | → | ↗ | ↗ | - | - |
| | 大口電力販売量 | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 企業倒産 | 企業倒産件数 | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| | 企業倒産金額 | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 金融動向 | 預 金 | ↗ | ↘ | ↗ | → | ↗ | ↗ |
| | 貸 出 金 | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↗ |
| 雇用動向 | 有効求人倍率（パート含む）注2 | → | → | → | ↗ | → | → |
| | 新規求人倍率（パート含む）注2 | → | → | ↗ | ↗ | → | ↘ |

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘
 注1：季節調整済。 注2：季節調整値。

2. 県内経済動向

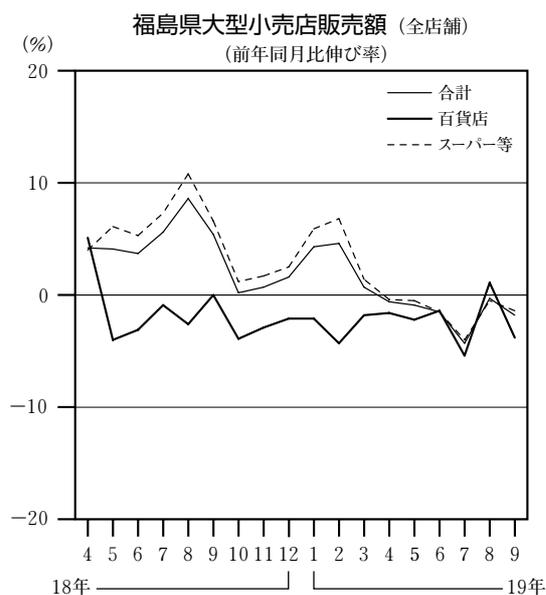
— 消費動向 —

大型小売店 9月の県内大型小売店の販売額は、厳しい残暑などの影響から秋物衣料品、バッグ、アクセサリ、履物類などの身の回り品および化粧品などが低調に推移し全店舗ベースで175億6百万円（前年同月比1.8%減）となり、6ヵ月連続で前年を下回った。

また、19ヵ月連続の減少が前月において下げ止まった既存店ベースでも、同1.3%減となり再び前年を下回った。業態別に内訳をみると百貨店は、主力の紳士・婦人衣料品、身の回り品などが振るわず合計では30億27百万円（同3.8%減）となり再び前年を下回った。スーパーは、主力の飲食料品は増加したが衣料品、家庭用品などが低調であったことから合計では144億79百万円（同1.4%減）となり6ヵ月連続で前年を下回った。

乗用車販売 9月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、主力の中小型乗用車の低迷が影響し合

計では6,886台（前年同月比0.8%減）と4ヵ月連続で前年を下回った。車種別で見ると、大型乗用車が782台（同1.0%減）と9ヵ月連続で前年を下回り、中小型乗用車も3,676台（同1.6%減）と24ヵ月連続で前年を下回った。また、2ヵ月連続で前年を下回っていた軽乗用車は2,428台（同0.4%増）となり一旦下げ止まった。



（資料：経済産業省）

9月の乗用車中古車登録台数（軽自動車は名義変更を含む）の合計では9,059台（前年同月比9.4%減）となり4ヵ月連続で前年を下回った。車種別にみると大型乗用車が2,558台（同13.2%減）、中小型乗用車が3,555台（同13.3%減）、軽乗用車が2,946台（同0.3%減）となった。

消費者物価指数 9月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）が101.2と前月比で1.0ポイント上昇し、前年同月比で0.7ポイント上昇した。

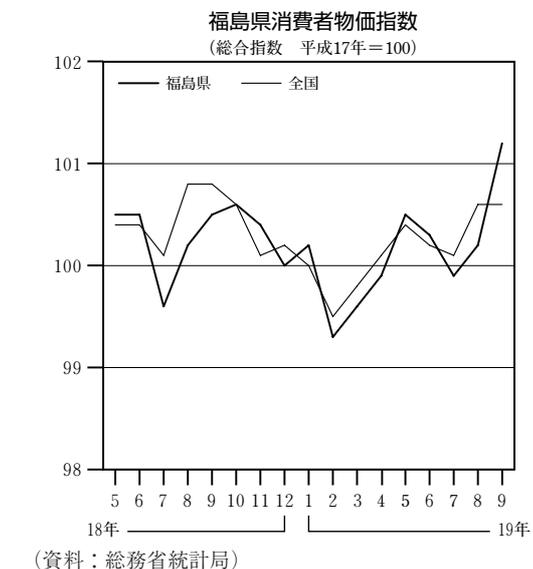
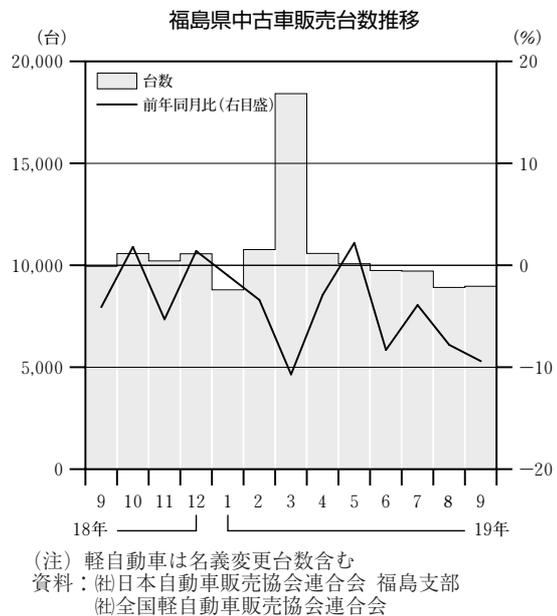
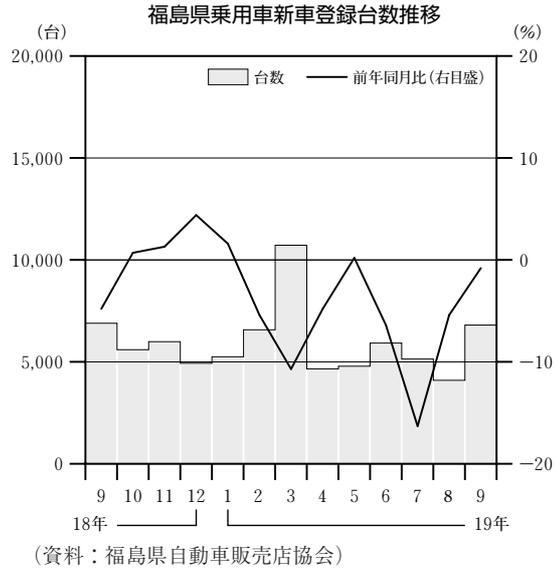
費目別の指数動向をみると、「食料」は102.0と前月比1.8ポイント、「被服及び履物」は105.3と同15.2ポイント、「家具・家事用品」は94.9と同1.5ポイントそれぞれ上昇した。一方、「保健医療」は98.2と同0.5ポイント、「交通通信」は101.3と同0.8ポイント、「教養娯楽」は98.1と同1.4ポイントそれぞれ下降した。「住居」は100.4「光熱水道」は105.0「教育」は101.3と前月比で変らなかった。

家電量販店 9月は、薄型テレビ、携帯電話、デジタルカメラなどの販売が堅調に推移した。一方、冷蔵庫や洗濯機は前年並みだったものの、エアコンは9月に入っても残暑が厳しい日が続いたこともあり、数量、金額がともに前年を大幅に上回った。

ホームセンター 9月の売上は、OA関連用品や肥料を含めた植物・園芸用品などが堅調で全体では前年をやや上回る水準で推移した。

旅行 9月の旅行取扱額実績のうち、海外個人は前年を上回ったが、国内個人、国内団体、海外団体は前年を下回ったことから全体の取扱額としては前年を下回った。

高速道路 9月の県内自動車道の通過台数は合計で3,628,356台（前年同月比2.7%増）となった。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）が2,162,564台（同1.5%増）、磐越自動車道



(いわき三和 IC～郡山東 IC) が255,079台 (同9.0%増)、磐越自動車道 (磐梯熱海 IC～西会津 IC) が511,844台 (同3.8%増)、常磐自動車道 (いわき勿来 IC～常磐富岡 IC) が698,869台 (同3.3%増) となった。

福島空港 9月の福島空港国内便の利用状況は、札幌便が12,507人 (前年同月比1.3%減)、大阪便が19,247人 (同6.6%増)、沖縄便が5,520人 (同5.4%減) となり、昨年9月に1日2便から1便体制となった名古屋便は1,898人 (同20.1%減) となった。

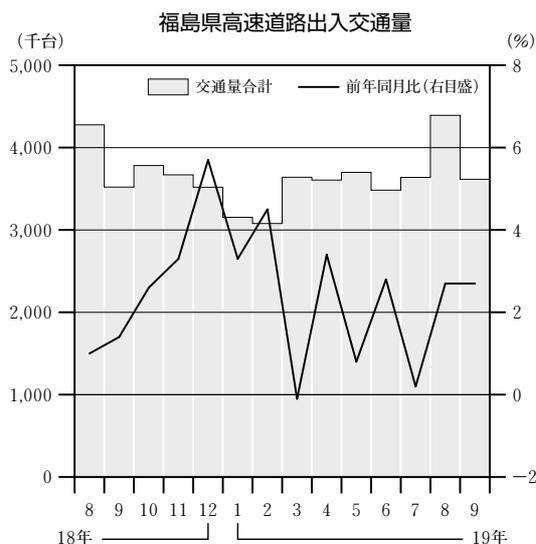
国際便では、上海便が1,509人 (同1.5%増) となり、昨年11月に週5便から3便体制となったソウル便は4,955人 (同6.7%増) となった。

—— 投資動向 ——

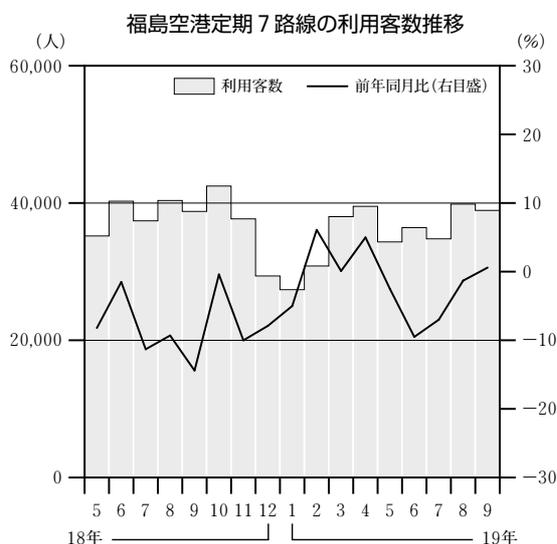
公共工事 9月の公共工事前払保証取扱は、独立行政法人および市町村からの発注減少が大きく件数が677件 (前年同月比14.0%減)、請負金額が188億55百万円 (同24.4%減)、保証金額が73億79百万円 (同22.4%減) となり、それぞれ大幅に減少した。

平成19年4月から9月までの累計は件数が3,327件 (同2.8%減)、請負金額が1,217億12百万円 (同7.9%減)、保証金額が464億29百万円 (同9.5%減) となった。発注者別に累計請負金額をみると、国が66億84百万円増加し166億67百万円 (同67.0%増) となっている。反面、県は63億14百万円減少し468億67百万円 (同11.9%減)、市町村は55億92百万円減少し480億8百万円 (同10.4%減) と大幅に減少している。

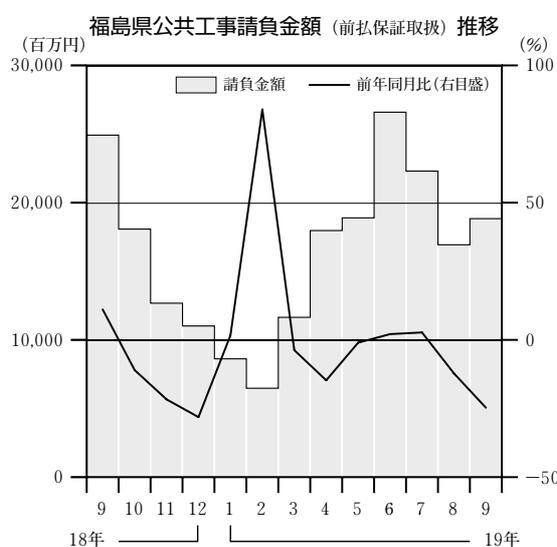
設備投資 8月の建築着工 (民間・非居住用) の棟数は、132棟 (前年同月比47.0%減) と5ヵ月連続で減少した。床面積、工事費予定額についても、床面積は、80,138㎡ (同25.9%減)、工事費



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)



(資料：福島空港ビル)



(資料：東日本建設業保証(株))

予定額は、120億8百万円（同16.5%減）となり、それぞれ2ヵ月連続して減少した。

住宅建設 9月の県内新設住宅着工戸数は、892戸と前年同月比7.5%減少した。利用関係別で見ると、持家は546戸（前年同月比9.3%減）、貸家は261戸（同13.3%減）、分譲は85戸（同46.6%増）となった。

新規住宅着工戸数は6ヵ月連続して前年実績を下回り、減少基調で推移している。

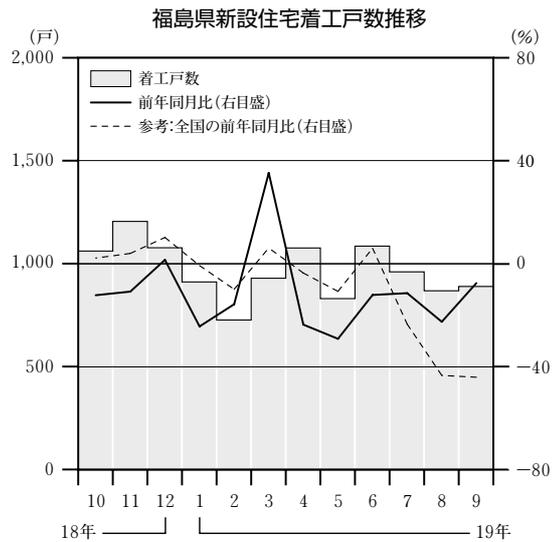
— 生産活動 —

鉱工業生産指数 8月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数で見ると111.7で前月比2.3%となり3ヵ月連続して上昇した。また原指数は107.6で前年同月比6.4%上昇した。

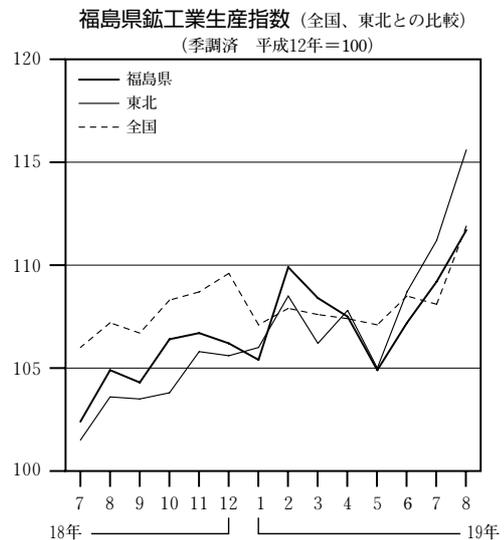
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）にみると、情報通信機械工業が102.2（前月比9.1%増）、パルプ・紙・紙加工品工業が118.8（同7.1%増）、繊維工業が72.5（同6.8%増）となり11業種が上昇した。一方、木材・木製品工業が47.5（同7.9%減）、金属製品工業が116.5（同7.9%減）、精密機械工業が92.1（同7.1%減）となり8業種が低下した。

化学 9月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内外の好調な受注を背景に、前年同月を上回った。金属代替プラスチックや炭素繊維も電子部品向けを中心に堅調な生産が続いている。9月の酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産は前年並みの水準で推移、バリウム化合物（電子部品原料）の生産は、液晶用塗料向けなどを中心にやや増加基調で推移している。

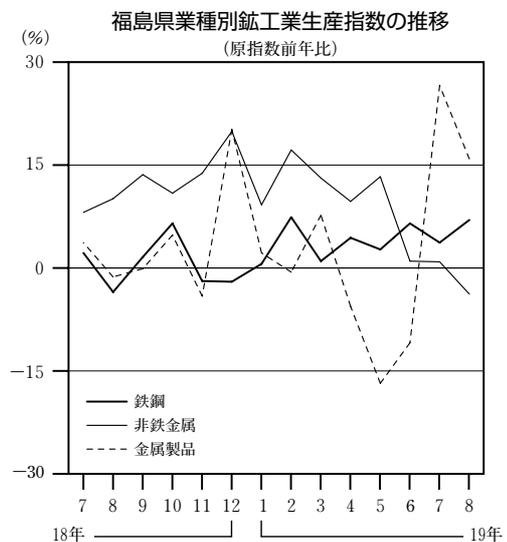
鉄鋼・金属 9月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が堅調、半導体向け電子材は半導体生産調整の影響もあり前年実績をやや下回った。9月のトラック用鋳造品の生産は、東南アジアや中南米



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)

向けなどの輸出が好調で前年同月を上回った。建機用は、中国およびオーストラリア、中央アジア向けなど海外からの鉱物資源用受注が好調で堅調な生産が続いている。車両用は、新幹線の更新需要、台湾、アメリカなどからの受注等に支えられ堅調に推移している。陸上プラントおよび船舶用バルブ部品は、海外を中心に好調な受注に支えられ、前年同月を上回る高水準の生産が続いている。

輸送用機械 9月の自動車用オイルシールの生産は、北米等の海外向けが堅調だったことから前年をやや上回り推移した。ブレーキ部品の生産は、前年並みの水準で推移した。

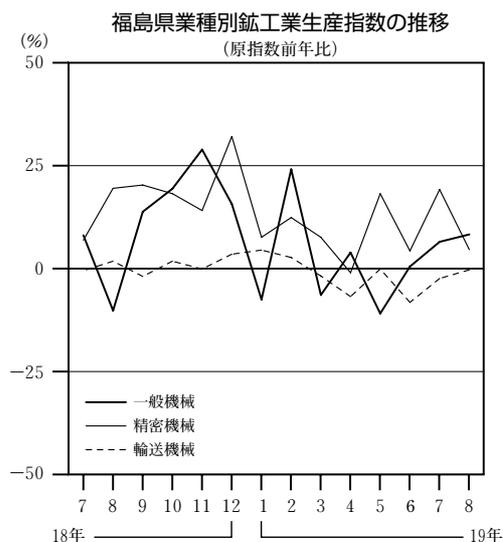
電気機械 9月の変圧器の生産は、堅調な受注を背景に前年並みの水準で推移した。配電盤や電熱炉も安定した生産が続いている。自動車モーターの生産は、国内外の堅調な受注に支えられほぼ前年を上回る水準で推移した。

情報通信機械 9月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、インド、トルコなどからの好調な受注を背景に、前年同月比大幅な増産となった。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、ほぼ前年並みの水準で推移した。

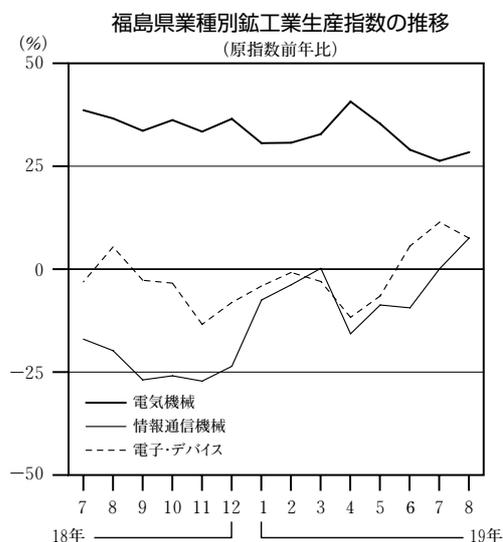
電子部品・デバイス 9月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV、ゲーム機、家電向けが堅調であり、特に携帯電話向けは前年を大きく上回ったが、産業機器、パソコン・OA、車載品がやや下回ったことから全体としては前年をやや下回る水準で推移した。

精密機械 9月の医療用内視鏡の生産は、新製品を中心に受注が好調、国内、海外向けとも前年同月をやや上回り推移した。9月のデジタル一眼レフカメラ用レンズは、海外向けを中心に堅調な受注に支えられ、前年をやや上回る水準で推移した。

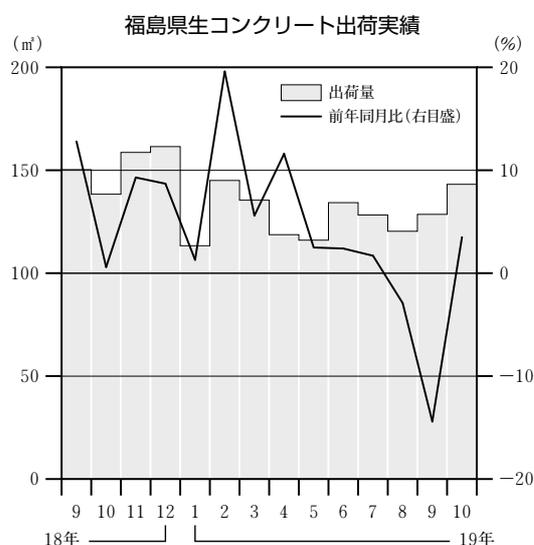
紙・紙加工品 9月の段ボールの生産は、デジタル家電向けや飲料・農産物向けを中心に堅調な受注に支えられ、前年並みの水準で推移した。感熱



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

紙の生産は、レジスター用の受注が堅調、前年をやや上回った。インクジェット紙についても前年をやや上回った。ノーカーボン紙の生産は、やや下回った。

窯業・土石 9月の生コンクリート出荷量は2ヵ月連続して減少し129,095^m（前年同月比14.4%減）となった。地区別にみると、海岸災害復旧工事が実施されている相双地区以外の地区では官需、民需がともに低迷している。

木材・木製品 7月の素材（丸太など）の入荷量は、17,875^m（前年同月比16.0%増）、販売量は17,963^m（同8.5%増）となり価格については保合いとなった。

また、製材品（合板など）の入荷量は2,774^m（同20.0%減）、販売量は2,216^m（同25.2%減）となり価格については保合いとなった。7月の新設住宅着工戸数は960戸、木造戸数は676戸であり木造率は70.4%（前年同月比0.2%減）となった。

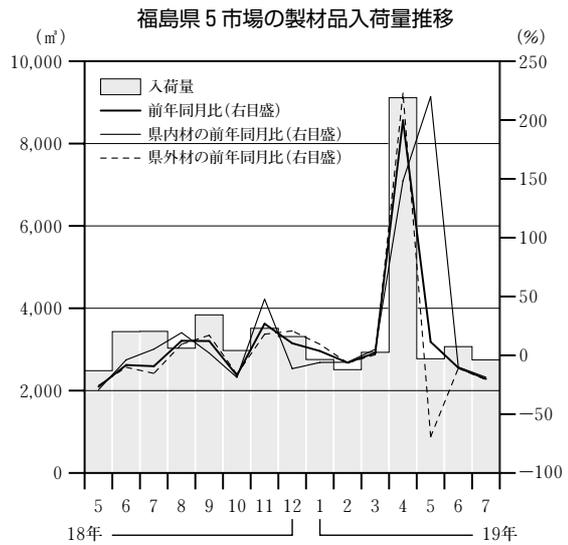
清酒 9月の清酒移出数量は、1,244kl（前年同月比16.7%減）と5ヵ月連続して前年を下回った。

特定名称酒は341kl（同13.0%減）、一般酒は903kl（同18.1%減）とそれぞれ前年を下回った。

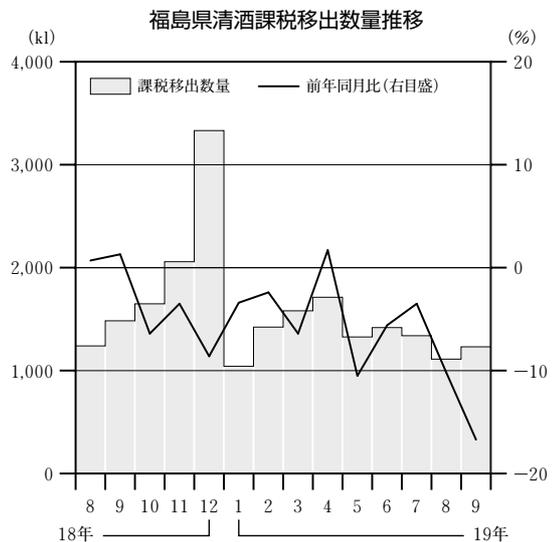
化合繊維物 9月のナイロンの生産は、ダウンジャケット（表地）向けを中心に前年並みの水準で推移した。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地等の受注が堅調、横這いで推移した。

ニット 9月のニットは、秋冬物向けの生産がピークアウト。春物展示会、高級品を中心に前年並みの水準で推移した。

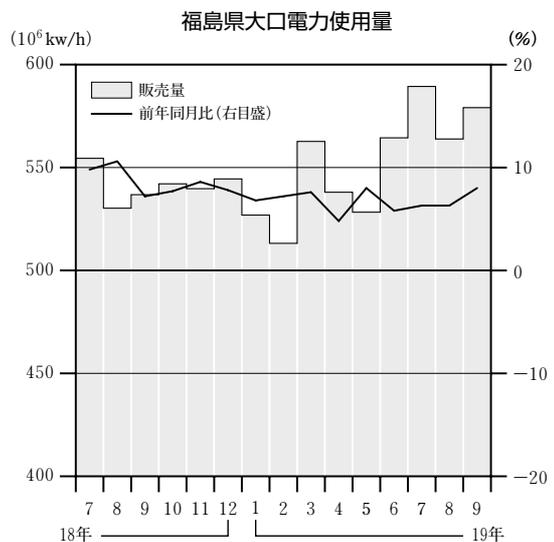
大口電力 9月の大口電力販売量は、579百万kw/hと前年同月比8.0%増となった。主な販売先を業種別にみると、「電気機械」が132百万kw/h（前年同月比11.8%増）、「非鉄金属」が98百万kw/h（同15.4%増）、「化学」が54百万kw/h（同3.8%増）、「輸送用機械」が61百万kw/h（同4.1%増）、「一般機械」が33百万kw/h（同3.1%増）となった。



(資料：福島県農林水産部)



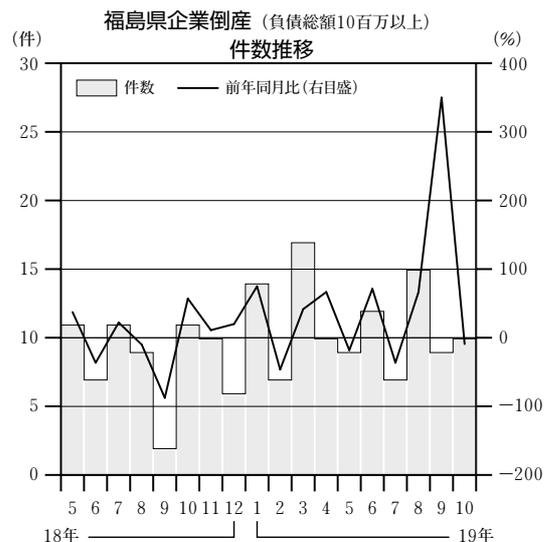
(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)

—— 企 業 倒 産 ——

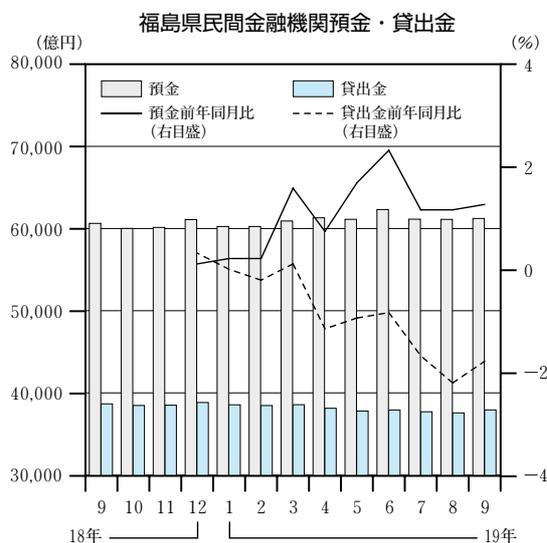
企業倒産 9月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数9件（前年同月比350.0%増）、負債金額は81億34百万円（同722.4%増）となった。倒産件数は一桁台に止まったが、倒産金額は大型倒産の発生により大幅に増加した。倒産原因をみると、受注・販売不振が7件、業界不振が1件、系列再編成が1件であった。次に業種別にみると、建設業、小売業がそれぞれ3件、サービス業が2件、卸売業が1件であった。地区別では、県北が3件、県南、会津、浜通りがそれぞれ2件であった。



（資料：帝国データバンク福島支店）

—— 金 融 動 向 ——

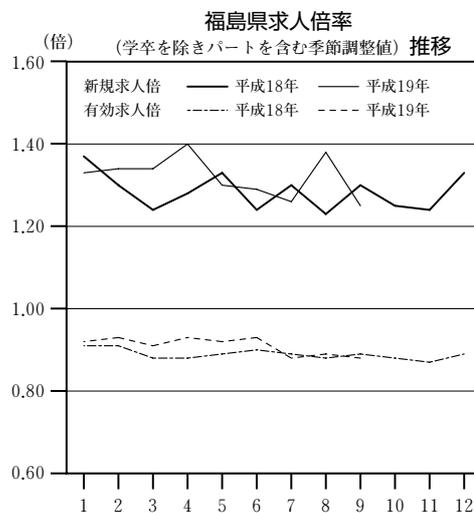
資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の9月末の預金残高は6兆1,326億円と前年同月比では1.0%増となった。貸出金残高は、3兆8,030億円と前年同月比で1.9%減となった。



（資料：日本銀行福島支店）

—— 雇 用 動 向 ——

雇用動向 9月の新規求人数は12,819人と前年同月比8.7%減少し、新規求職申込件数は9,012件と同7.1%減少した。新規求人倍率（季節調整済、パート含）は1.25倍と前月比0.13ポイント、前年同月比では0.04ポイントそれぞれ下回った。また、有効求人倍率（季節調整済、パート含）は0.88倍と前月比0.01ポイント、前年同月比では0.01ポイントそれぞれ下回った。



（資料：福島県労働局職業安定部）